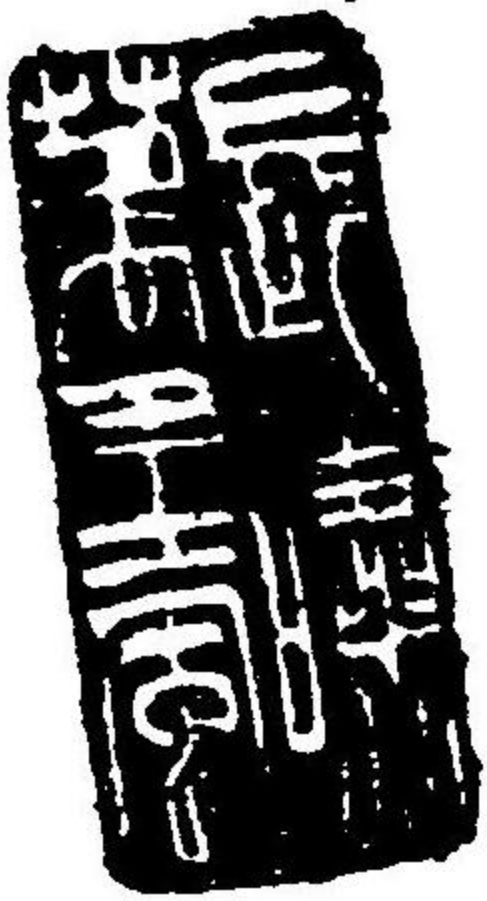
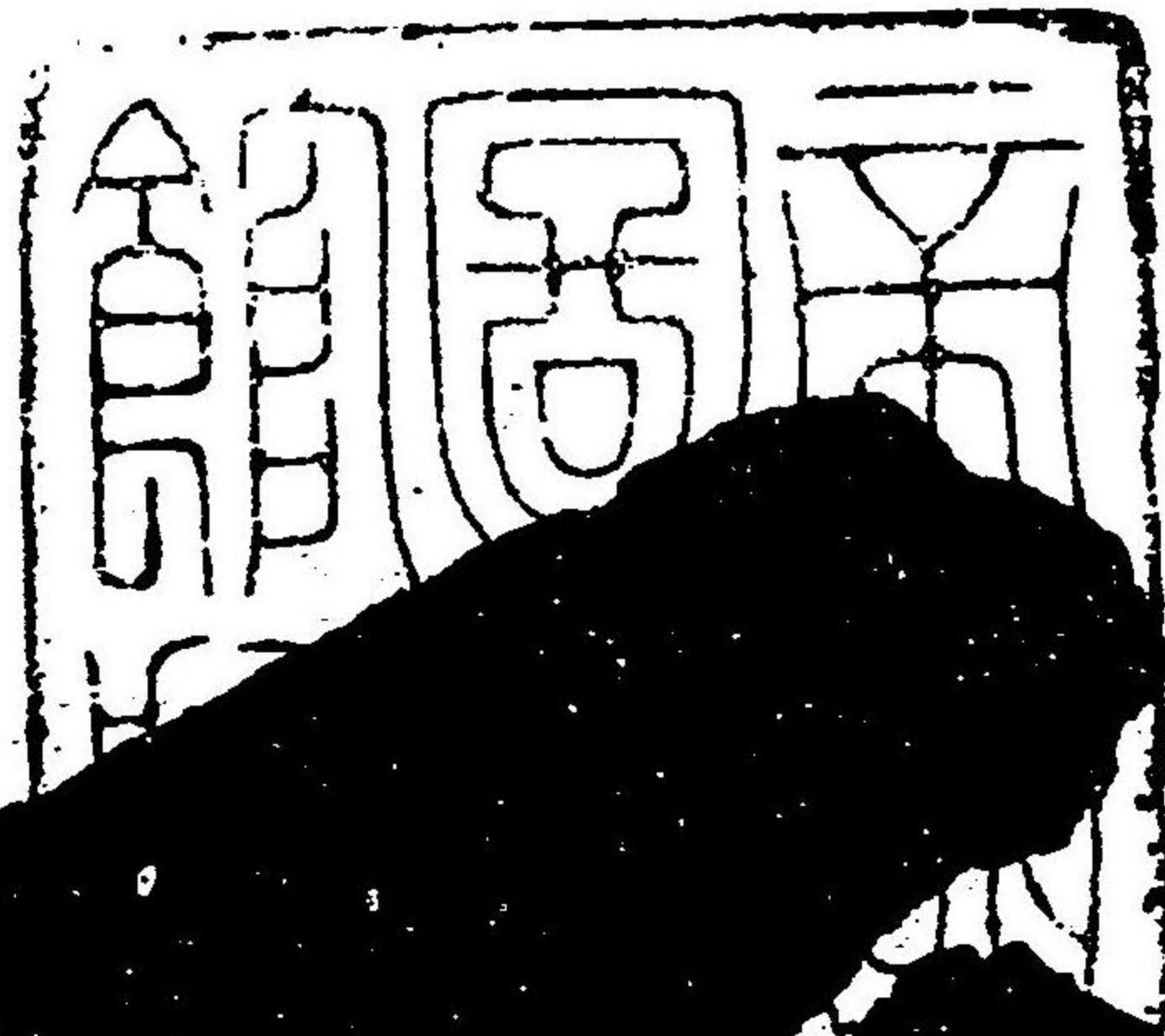




特  
夕  
111



Large, bold, black calligraphic characters, likely the main title or a significant name, written in a cursive style.



母

母

天

天

天



道至誠之  
可以



# 前知

中村正直



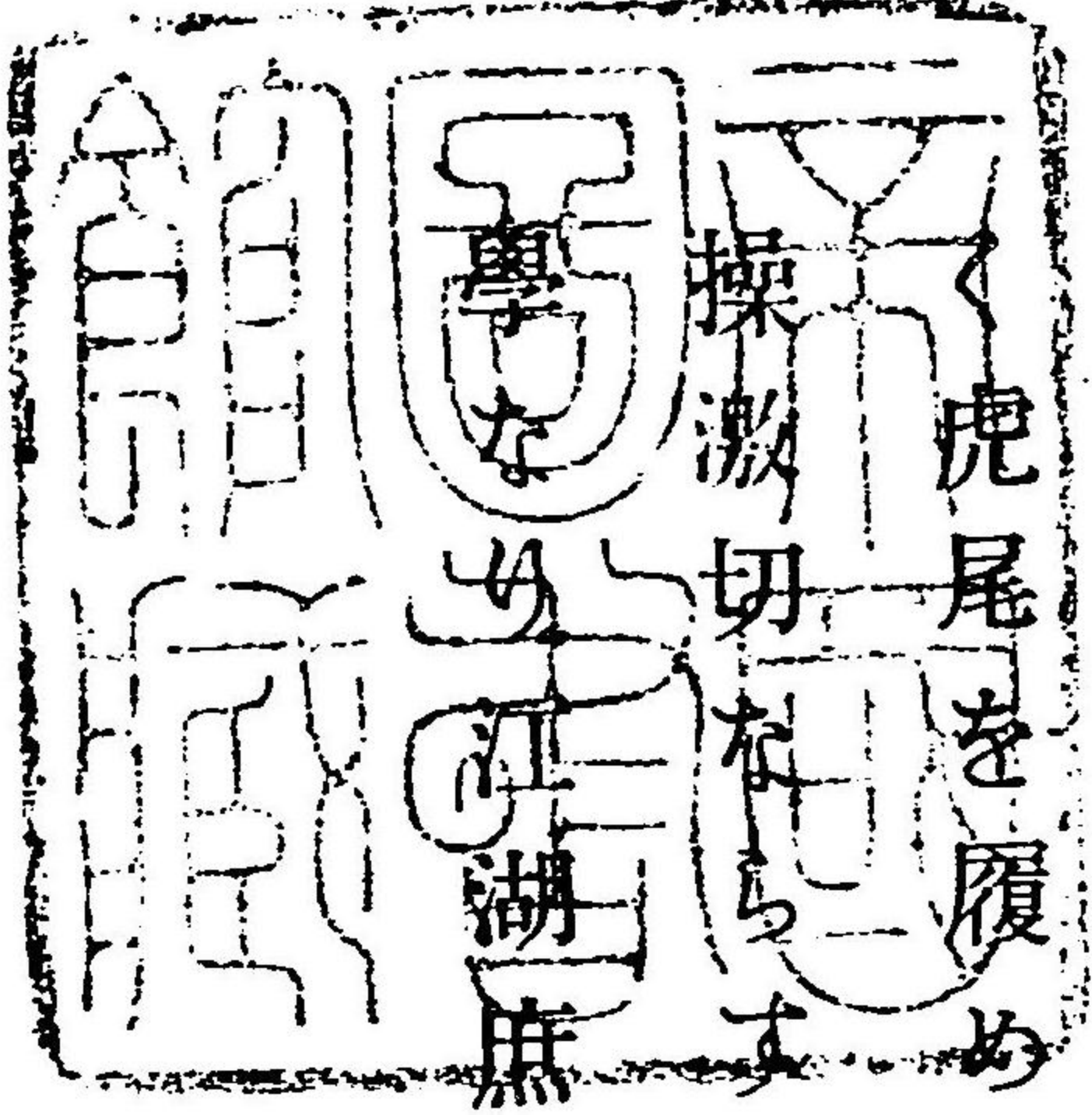
序

邵康節云人蠹書害多又云人蠹當如何世之  
著書者或害人心或害風俗天下國家莫不被  
其害者不翅害聖經賢傳夫竭之害止於木蠹  
賊之害止於禾瀰滿浸淫害天地萬物者則人  
蠹是也眞莫如之何矣雖然豈無拒之之道哉  
嗚呼茲書極主至誠夫至誠天地之道正氣之  
所發焉其所說凜乎如秋霜赫乎如烈日不假

秦火而直驅除人蠹之害則文士筆端亦善有  
國家禦侮之力哉夫人蠹雖康節豪傑之士亦  
所畏也

阿波 有井 範

特ノ  
111



く虎尾を履めども神氣恬然經行に脩飾せず名跡愆ちなし  
操激切なれとして素風愈々鮮かに大に邦家を裨補する實  
君一覽を希望す

一此の至誠の學は天地至誠之道神理之本體萬劫不易人心之  
根據也諸務に明辨し治體に監達し懸然たる天徳計らざる  
に心に成る治亂に隨ひ時と偕にして正義實行天下に洽ね

至誠は神理の本體無極の實徳にして造物群品の祖なり天地未分の前に在て天地開闢す開闢して陰陽其位定まり萬物其間に生育す是則至誠の神恩なり物有れば則あり事有れば終始あり無情の草木は本末あり有情の生類は首尾頭臀あり陽に赴くものを首頭とす陰に向けるものを尾臀とす我此土は東洋日出の方に位し地球の元首たり神理の至誠坤府の首頭よりして萬國至らざる處なし大古より我土六十餘州の扶桑八萬區の鎮座有て高明至誠の神徳を懷き靈驗妙應寔に在るか如く國家に益あり生民に利あり是至誠神明の正國なり故に我 天皇聖統連綿として大坐したまひ俊傑之れを補佐し上の下を愛し下の上を仰くか如く上下をして一和せしむる



所は惟啻人力のよく致す所にあらず神國至誠の本府にして  
萬國に超絶する元首の地勢なり衆庶此土に生育する是國恩  
なり身體髮膚父母に受くる是親恩なり國家靜謐にして祖孫  
共に安堵に住し官に在ては爵祿たまはる是皇恩綽沖の大な  
るものなり依て勤王奉義敬忠の大任あり土には盛務盛業報  
國仁恕の大任あり親には修身孝養の大任あり神には清淨恐  
敬の大任あり人として其任を負はざるものなし此任を負ふ  
には至誠實徳の力らを有して正義實行明かならすんは立た  
ず因て勇猛の憤志を振ひ敬心一つにして狭小固陋の私智を  
去り神理至誠の本心を存養して廣く百般の事業に貫き普く  
百行の實理を修め深く厚恩に報じ徳日々に高ふして祥を國

家に貽さん上王侯より下庶人の子弟に至るまで至誠の實徳  
正義實行に有らされは立たず故に立志脩行の學者種々の名  
稱に泥ます名利に蓋はれず性神至誠の實徳より外ないど修  
行に力を盡せは學力日々に新にして正義實行益々明かなり  
力らを盡さるより正義實行をあやまり種々の見聞に迷ひ  
神教を説けは神教なりに思ひ佛教を説けは佛教なりに思ひ  
儒教を説けは儒教なりにおもひ夫々教毎に泥み變りて却て  
教の本旨に差ひ至誠の實行にかなはず直ちに天稟自心の至  
誠を求めて諸教庶説に泥着せざる性神至誠の實徳あるとを  
能々合點せは毫釐も疑惑なきに至つて實行必洽ねからん其  
至誠の徳たるや祖聖の造り拵らえて教へ置れたるものにて

は決してなく萬世不易神理の大道人理の達徳なり然れ共人道衰え偏僻する時あり時にしたかつて異端の諸説行る異端の偏説國家に害あり生民に利あらず故に先聖之を憂ひ有言の天地となつて至誠の一貫以て内外を洞照し人道無量の數に應じて實理實行正義を説き教え示さるゝものなり其至誠の神心は開閉語黙時なけれども其郷あつて自ら發し言語應對百行缺ること無きものにして今新に造り立るものにあらず水は冷つき火は熱きか持まえとなく昔も今も後世聖哲も動かしかえるとならぬ至誠性神より發る心の誠のまゝに眞直くに行ふことなり夫火の燃ゆるは天然の生れ付きにてある然れ共燻り塞かることあり夫を力らを盡し工夫を用ひて

よくさらへすかして燃ゆる本法に直してもやすなり此時前の骨折て直す塞り燻りはなくなり果てゝよく燃ゆるなり塞り燻り居ては火の實用を缺く人も其如く私慾の爲に塞り濁ること有るを力らをつくと能く浚えはらつて清潔にすれば疑ふものなく滯るものなし此時塞り濁らす念欲はなくなりて性神至誠と共にして正義實行自ら行はれ疾くせずして速に爲さずしてなり行せずして至る諸願心の儘なり塞り濁るとあれば正義實行を缺くよく浚えはらつて塵芥もつかす縦横十文字とちらえどうしても萬劫を経て易りなく萬般に應じ自在に活用し實理實用を差えさるものは至誠の實徳なり外に多端の道を求めは神性至誠の本心に懸隔する彌々遠

し矣誠心正直恩義を報し五常五倫は人道の常にして知れた  
通りと云へけれども睨と定まつて言行共に相違なければ誠  
に萬幸智仁の勇者なれども曹容神藥カクテラウヂノシヨウダクとして疑惑をとり舊習  
鄙俗の情慾に蓋はれ汗濁の塵芥に滞りて得と合點なく種々  
に迷をとり竟には日々の善行を怠り徒に一生をあやまらば  
何ぞ不拔確乎の誠心を得んや私氣甚しきは人を誹侮し強論  
以て怯弱を掠め佞辨以て正直を欺き坐して私利を貪り我業  
職を修せず何を以か國家を維持せん何の力あつてか厚恩に  
報せん是皆心の飢渴に陷溺して至誠に悖りて過害をとるも  
のなり故に本體至誠の一貫篤と始終落付まで合點せされは  
正義實行ゆき届かず至誠を本體と擧て指標するも物理の自

然皆其本體のなり立つてあり物を生ずる總體の形となるも  
のは天地なりに本體立てあり物を照し晝夜の形となるもの  
は日月なりに本體立てあり物を燃し潤すのと云は水火なり  
に本體立てあり物を生ずるは四時なりの本體天道順行し陰  
陽交々萬物生殺人生日用に至り五倫五常物の有り則あつて  
百揆百行百般缺くることなく周流萬化して其所を失はさる  
ものは神理本體至誠の實徳にして万物總て此に備はらさる  
なし本體とは素より立てあるなりの形を云其至誠の實徳は  
後世出來たの教祖か造たの或は大たの小たの明たの暗たの  
又は益しての損してのと有餘不足と云ことは自ら始よりな  
い全體たゞいの形ちゆる本體至誠と云ふ天に繼て極を立る

と云も神理至誠の本體其なりに立て天下万世の標則となることなり盛衰清濁偏正の變あるも至誠の本體少しも變りはないズキ燻りても火は燃え濁りても水は清む本體なり斯の如く本然易らざる至誠の實徳なり篤く信し深く合點せざるより舊習の私氣に克つこと能はず偏濁の情念より判斷し正とし邪とし明とし暗とし竟には中直至誠の實行正義をあやまり惑々として身心確定せず故に他に奪はれて是まで信せられたる神教を信せずして儒教を信し是まで信せられたる佛教を信せずして諸説に迷ひ斯の如く輾轉放心せば身心安堵の地を破り力らを失ひ事業を怠り醉漢の如きは迷の甚しと云はざるを

得んや宗教流派を異にすと雖本源皆同じ故に衆門に臨て入んと欲せば終身入を得んや大も名くへからざる教奥の宏大小も數ふへからざる至誠の活用微妙を観ると能はず日新參究の丈夫はしからず一途に本體至誠の實行より外ないと種々の説種々の教有るも實徳のたすけならんは聊か之をとれ共敢て中途に泥着せず唯吾精神を研究し誓つて力らを盡しよく合點し舊習疑念の根源を究盡し聖凡の二境を超絶せは豁然確乎として毫釐も私念に蔽はるゝことなく實行常に普く四海に彌り天地の間に充塞す總て人生日用事業交際父子兄弟を始め互に相親み相愛する仁と云も善惡取捨の宜しきを捌く義と云も互に相恭敬辭讓する禮と云も總て善惡是非

分別する智と云も日用虚假なく眞實に取扱ふ信と云も親に事を能く其力を盡す孝と云も君に事てよく其身を致す忠と云も夫婦の別も長幼の序も朋友の信も適なく莫なく義に比ふと云も動靜去就皆是時と偕に行ふと云も學術も諸藝も天地も日月も神教も佛教も儒教も淺深遠近も大小高下も本末精粗も四海萬世内外を通照し中正の物理を失なはざるものは皆是至誠精神の成す所なり故に至誠をはなれて道を立つれば邪道となり教を立つれば邪教となり説を作せば邪説となる是皆然り性神中直至誠の實行によく知力を盡し能く明にして其道を修むるを正道とす人を修むるを正教とす説を作すを正説とす氣質の偏濁疑心より理を認めて至誠の實行

にかなはざるは殊に知らすや火の燠りを認めて燃る光を見ざるか如きを燃熱光の三つの如きは火の天然生れ付にてある其生れつきに順て湯をわかすも飯を炊くも燈を揚るも温暖をとるも夫々用ひ様あるも火の持まえに順てなすより外にないと同く別に理を求め拵えて道とし物をしわめ付て導き教とすることは天地さらえて決してない至誠の精神體に伸ひ事業に顯るゝとなり天道と云明德と云天命之性と云神明と云佛心と云神理と云皆是至誠の全體なり聲なく臭なく周流して息むとなく四時行はれ百物成り活として至らざる處なきものは至誠の妙用なり人に有ては至誠の實行之をはなれては仁義の名あつて仁義にあらず治國の名あつて治國に

あらず治家の名あつて治家にあらず父子の名あつて父子にあらず君臣の名あつて君臣にあらず人の形あつて人にあらず是皆しかり至誠は神理の妙體得かたく及ふへからざる思ひをなし脩行に力らを盡さず遠く淵源を窺ひ精しく玄微を盡すも無用とし只人欲の私を去らは可ならんと云ひ外に求むることを待すと云は、不可なり言語美にして實行必行き届かず散心一守して力らを盡さ、れは彼の人欲の私に克つことあたはず中心惑々好惡積億にして常に疑て決せず決せざるときは高潔斐然たるも裁するに處なし百行實理にかなはず中和を失ひ或は嚳々として高蹈驕慢に言行相差ひ或は軟弱にして常に飽暖を求め内妻妾の愛にひかれ外名利の私

に蓋はれ智量狭小にして至誠の悠久高大清淨照明なるを知らず實行正義をあやまる正義あやまつて中和の正道行はれされは則ち上は萬揆の政務に宜しからず下は室家郷黨に宜からず君臣父子夫婦兄弟の間も穩かならざらん是誰かあやまちそや脩行浮薄にして世智濃厚に至誠の實徳神理の高明を窺ひ知らざるの致す處にして盡心勉力淺薄なる驗なり神佛儒の名にあらずして上よく政揆を存し下よく政規を保守し性命に安しよく仁によく義によく盛業盛務を脩むるものは夫唯性神至誠なるか耳目の官にては知るへからず聞くより見るより言ふよりも無上尊貴のものあり則ち至誠神明なり人毎に皆是至誠の神人なれども其尊貴至誠の神を知る人

稀なり我寶庫の内になりなから知ること能はさるは放心して外に求る故なり之を宅中の寶藏を知らすと云財寶近きに有て之を遠きに求めは學者百端を究め四天下を照破する智眼と雖とも何ぞ觀ることを得んや神理至聖の實學に深く志し厚く信せば自ら知るゝことなれとも力を盡さずして觀當らされは解けざる糸の如し直下に至誠の神明より直傳の術あり易に曰く思ふことなくなすことなく寂然として不動感して終に天下の故に通すと云へり思ふことなく爲すとなく寂莫無心にては感通せず其感通する底のもの何ぞと散心一に究めて深切に之を思ひ之を思ふて通せさるも又重て之を思ひ且暮動靜の中にも散心一致勉力して怠たらず日久しく務

め守らは神それ之を告げ一旦に思想盡き勞力去て大に安く苦艱の眉目を開き豁然確乎として求るに塵濁なし此に於て生を求めて仁を害することなく諸惡自ら斷ち善を樂んで倦むことなし是則仁人天下に敵なしとは是等の趣きにあらずや内外を通照し天下の故に感徹する至誠神明の直傳なり宜しく中直至誠にして天地と參なるへし何を思ひ何を慮らん素より天受の自己即神清淨至誠の寶德此に於て始て現るゝなり是を信せずして外に神を求め佛を求め道をもとめは神佛を敬するにあらずして正に神佛を汗濁すなり道を求むるにあらずして道にもとるなり其實なる疑ふ可らず學者一心に受持説の如く修行せば日光の一天を照して偏頗なく幽冥

を除かざるか如く心上決定して毫髮の疑ひなし智者若し誹  
 疑して知欲の網みに入らば闇夜に不知の道を求むるか如く  
 苦慮を免るゝとを得ず若し又疑ひ決せざるものあらば本に  
 返て至誠の深理を索め是非善惡得失義理のたがはざる天然  
 公付の持まえを知り明め總て本體の誠を以てせば自然と至  
 誠の實徳脩まり人よく其分を知り常を守る官士はよく政規  
 を正ふして國家を利益し義忠を護持し其身を致して皇基を  
 守護す農はよく耕耨して財食を足し正政の王國に報す工は  
 よく巧にして機械を製し衆力を助けて盛業を計る商はよく  
 正利を以て諸品の有無をはかり有餘を通して不足を輔すく  
 學ぶ者は實學を勤めて諸教の間に隱藏せず神儒佛の名に染

汚す可らざる性神至誠の實徳を覺得し實行天下に普くす脩  
 行浮薄にして至誠の玄微を究め觀されは高照明察知覺の識  
 權を生じしらすしらす至誠の實旨をあやまり佛者は無物を  
 認めて反て無爲の徳化をあやまり神者は神理の高照に止ま  
 りて反て神理至誠の活神をあやまり儒者は明德を認めて反  
 て日用至善をあやまり是皆道を求めて道に迷ふ乾々たる君  
 子はよく高遠を究めて精微を祐け淵源をさくつて至誠の神  
 理に通じ人にすぎたる識量あつてよく人を脩めよく人を導  
 き衆に超えたる智徳を具してよく盛務盛業を治めよく明察  
 にして庶務に明達しよく治體を鑒通し懸然たる天徳謀らす  
 して心に成り大麓に入れ共烈風雷雨も迷惑せず萬揆の公務



百般の家事取扱ふとも水鳥の水に入て少も羽翼を濕さゝるか如く一切の事務に随つて轉せられず正義實行四海に普く明は日月と並て始終なく徳天地と等しく天に先たつて天にかはす天に後れて天時を祐くと是れ則ち聰明睿知神武にして殺せざるものとは是等の旨向にあらずや學者此期を得ば是神恩に報するの時節ならずや身を殺して仁を爲すことあらば是國恩に報する時節ならずや父母に事てよく其力らを盡し實孝至らざる處なきは是親恩に報する時節ならずや至誠の心を盡し上政化を輔け下國家を利しよく其身を致し正忠以干城とならば是皇恩に報するの時節ならずや此任に處するの人寔に容易ならされども聞説らく山は頂きを究めさ

れは遠きを見ることあたはず海は底を盡さゝれば深きを量ることあたはず宜なる哉遠く見深く量りて至誠の實徳を脩め衆善奉行せよ此の道たるや獨り高く造物神のみ信する道にもあらず又無心を旨とし不思量を思量し一物なく痕垢盡き果て至善の力ら窮りなきを認めて百億を超たりと權度を主張して教説する道にもあらず又天命之を性とし性に順ふを道とし高遠に居て卑微を守り明知に止りて治國平天下と教示する道にもあらず又清淨高潔にして照々として至らざる處なく明々として察かならざることなきを以無上尊貴の神明は庶教に超えたりと認めて教導する道にもあらず又清水を冠むり内外を清潔にし祈念祈禱を以諸厄難を除くと云

道にもあらず又私なくして天地に充塞する至大至剛の浩然の氣を養ふと云道にもあらず又玄默を以神とし澹泊を徳とする道にもあらず又財貨を貯積して宏屋を建營し器械を集めて物を製し世間を利するを以鴻業とする道にもあらず又皇基を守護し中國に立ち四海の衆庶を安定するを以盛務とする道にもあらず正教實説を離れ盛業盛務を除きて外に至誠實徳あると云ふにはあらず唯是非好惡をとめずして鈍の如く知明に關せずして愚に等しく形聲なくして拙に似無邊にして名つくへからず微妙にして數ふへからず智もはかること難く一致透徹して中和し消長して以化成し天地と流を同ふす性神至誠と別ならざる道なり爰に於て日月照明四時

順序を差えす君々たり臣々たり親々たり子々たり各自分職に安んじて國家靜定なり此の至誠を得護せは未萌に災害を防ぎ招かさるに禎祥來らん宜しく徳政立て公道成る皇基守護あり人民歸して盛務修まる博く盛業起つて國土は豊饒なるへし兵食彬は々として常に足り内堅ふして外患なく勢權は全ふして國威輝き海内は澹然として靜穩なり國家は富岳の如く安く衆庶は仁化に沐浴せん諸願成就し幸祉を國家に貽さんこと疑ひなし

天下一致皆是至誠の神人なり仁義忠孝衆善都て自ら備る深く觀察して總に是至誠の人となり上下和睦し一天博く親愛し均しく至誠の實徳を懐いて此土をして永榮不朽靜安なら

しめんと欲するのみ

見者此不文卑綴を咲讀し其意を觀取せられは萬幸

明治廿一年 月 日

至誠老士 三神方察乘常述

### 廣 告

廣ク篤志者ノ賛成ヲ得タル大日本弘武館第壹館ハ山梨  
 縣中巨摩郡二川村ニ第二館ハ東京市四谷區東信濃町拾  
 壹番地ニ新築致置キ候ニ付キ有志ノ學生ハ來學アレ  
 但シ滿拾歳ヨリ貳拾歳迄テノ學生ニ限リ教授ス

- |   |      |       |      |      |
|---|------|-------|------|------|
| 科 | 一擊 劍 | 一兵式體操 | 一柔 術 | 一弓 術 |
| 目 | 一馬 術 | 一銃 鎗  | 一武講義 |      |

東京市四谷區東信濃町拾壹番地

明治三十二年 月 日

## 大日本弘武館

### 諸學生御中

# 廣 告

一八幡御目藥ハ本舖祖先ノ秘傳ニシテ古今無類ノ良藥  
ナレハ人様ノ御勸メニヨリ今回眼病諸君方ノタメ廣  
ク發賣致候間御ためしの上御評判ヲ被下候様伏テ奉  
願上候散具

功 能

一

○タダレメ  
○トリメ

○ノボセメ  
○サンセンサンゴノメ

○ハヤリメ

○カスミメ

○キツメ

東京市四谷區東信濃町十一番地

明治三十二年 月 日

本 舖

三 神

開 雲

堂

江湖眼病諸君御中

明治三十二年三月十八日印刷  
明治三十二年三月廿一日發行

(定價金五拾錢)

編輯兼發行者

三 神 家 滿

四谷區東信濃町十一番地

印刷者

玉 置 與 十 郎

京橋區宗十郎町四番地

印刷所

國 文 社

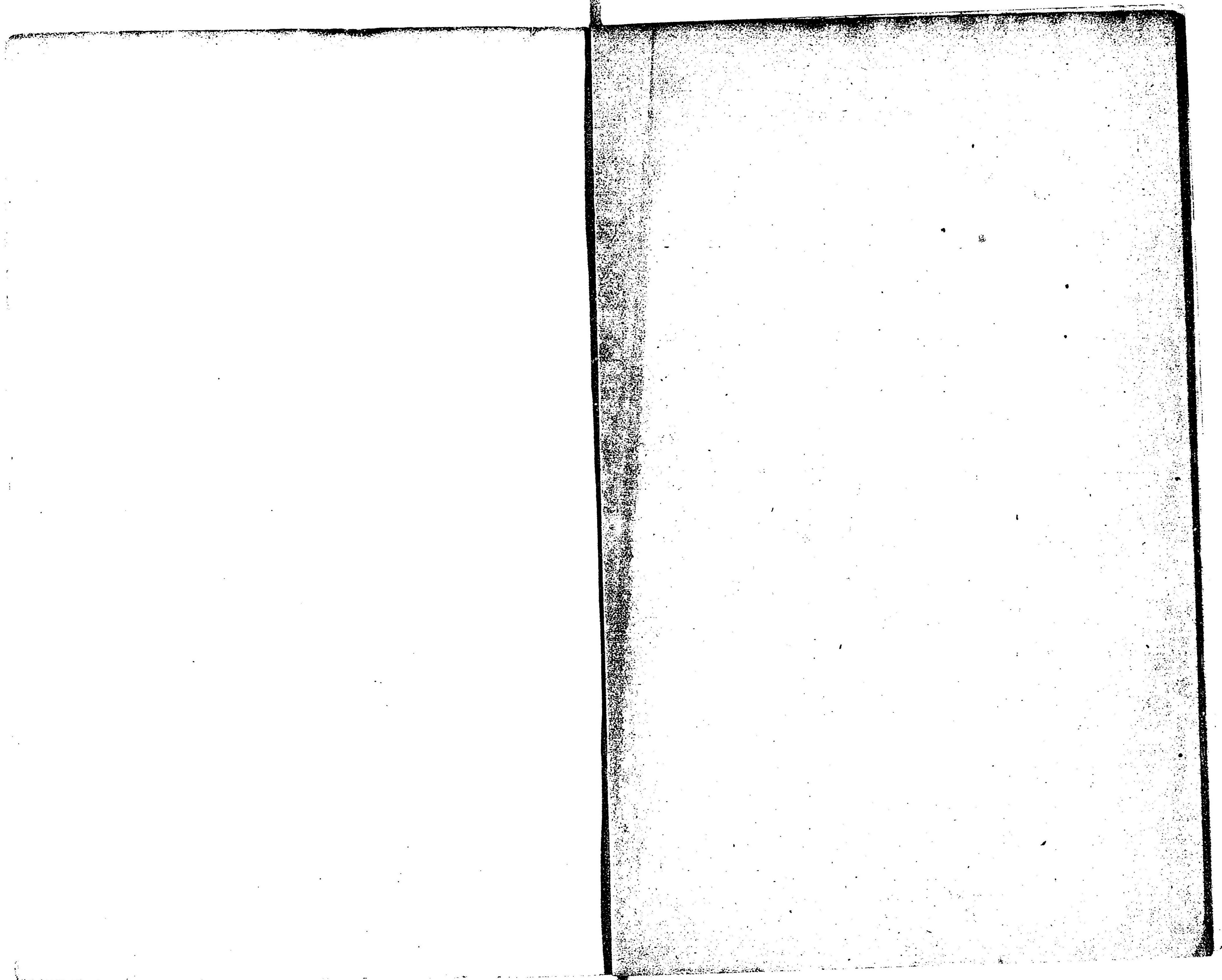
京橋區宗十郎町十五番地

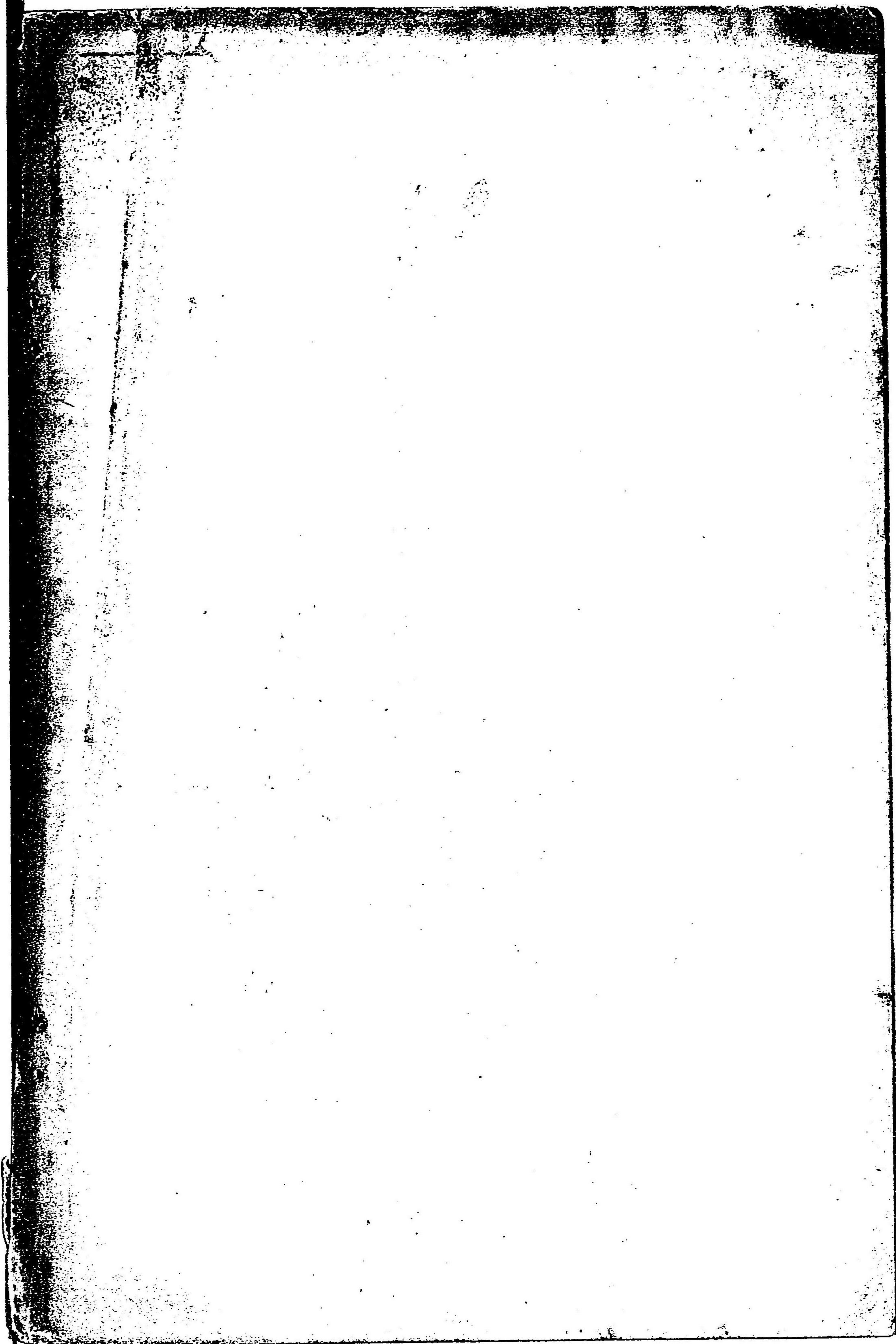


賣 捌 所

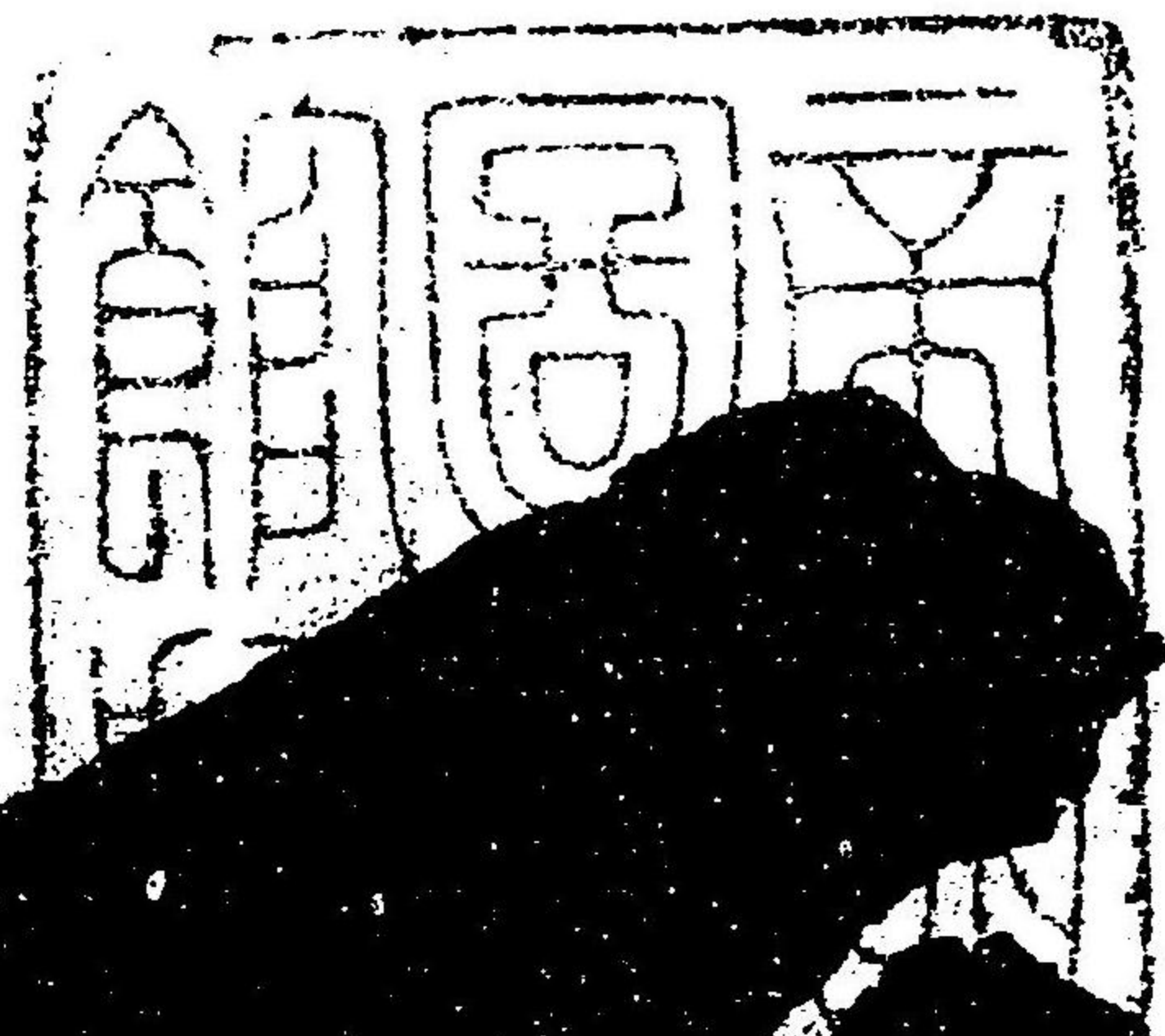
三 神 開 雲 堂

四谷區東信濃町十一番地





天  
明  
海  
圖





母

母

天

天

天



道至誠之  
可以



しめんと欲するのみ  
見者此不文卑綴を咲讀し其意を觀取せられは萬幸

明治廿一年 月 日

至誠老士 三神方察秉常述